

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2092400015		
法人名	有限会社 平成		
事業所名	グループホーム 道		
所在地	長野県上伊那郡飯島町田切161-52		
自己評価作成日	平成23年1月29日	評価結果市町村受理日	平成23年4月22日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

<ul style="list-style-type: none"> ・太陽を浴び茜に染まる空を眺める事ができ、木の温もりを感じながら生活できる建物です。 ・花や野菜を作り、四季を感じていただける様に取り組んでいます。 ・いつも語らいの音が聞こえ、笑顔で暮らしていただけるように 輪・話・和を大切にしています。 ・地域の中の一員であることに誇りを持ち、気軽に立ち寄っていただけるように努力しております。

事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2092400015&SCD=320
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成23年2月24日

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

<p>このグループホームに入っていくと、利用者の皆さんの笑顔が迎えてくれる。壁面に貼ってある利用者の大きな写真も素晴らしい。このように生き生きとした生活を支えているのは、職員の皆さんである。利用者一人ひとりについてケアプランを基にきめ細かく支援してゆく体制がきちんとできており、互の信頼関係が深まっているからだといえる。</p> <p>多くの利用者がここで看取りまで過ごしてきたことは、利用者の信頼が家族に自然に伝わり、終の棲家としてこのグループホームが認められてきたからである。安心して任せられるターミナルケアを目指して、さらに発展が期待される。</p>
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(東)		項目	
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

ユニット名(西)					
項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11,12)	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない			

(別紙)

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り上げている。施設内に提示し目に入る様になっている。 職員会で毎月確認し合う。	理念の3つの”わ”について職員は、連携の輪、なごやかな和、聞き上手・話し上手の話と具体的に語ってくれた。管理者と職員とがよく共通理解していることがうかがえる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	近所の人に出会えば挨拶や会話をする。雨が降ってきたり洗濯物が飛んでしまったときは声をかけてくださいます。 地域の行事に参加させていただいている。 花や野菜を届けて下さったり、通りがかりに畑から取って下さったりしている。	地域の組合に加入し、普通の組合員と同じように道普請に出かけたりしている。近所からの野菜の差し入れなどが普段からある。また、利用者が地域の文化祭やどんど焼きなどに参加したり、地域からハーモニカ、踊りなどのボランティアがいろいろあつたりして、地域とのつながりが強い。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	海外協力隊の研修受け入れ 他施設の研修受け入れ		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出された意見は職員に伝えサービスの向上にむけ努力している。	地域から総代、隣組組長、民生委員、そして町役場・包括センター職員、また、利用者代表、家族代表と幅広くメンバーが参加し、話し合いを行っているが、定期的開催できていない。	地域の方々や利用者の家族の方々の理解を得て、時期や時間、場所や方法を工夫して、定期的開催することが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場などに出向き担当者で面談し施設での状態を常に報告し助言を受けるよう努力している。	利用者についての情報交換などで担当者と連携を密にとっている。	運営推進会議や行事などでの参加をさらに依頼し、より広く協力関係を築いてゆくことが望まれる。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を前提とし、拘束が止むを得ない利用者については職員と家族との話し合いで最小限の拘束で安全が保たれるようにしている。月1回拘束解除に向けて検討している。	ある一人の利用者が介護衣(つなぎ)を着て入所してきた事例では、職員で話し合い、精神科とも連絡して止めるようになってきた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会において虐待について再確認し、言葉遣いや言葉のかけ方等について再度確認しあう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加して職員にこのような制度のある事を知ってもらい、職員会を通じて報告している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時・契約時に説明し、本人の希望や不安又家族の要望や不安をお聞きする中で、納得した上でサービスの提供となるように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族の面会時などで、意見や要望を職員に伝えてもらい、それを運営に反映する。 職員に気軽に不満を言ってもらえる人間関係を日々作れる様に努力している。 家族会を設置し意見や提案を聞いて反映している。	普段から、利用者やその家族と気兼ねなく話せるような人間関係づくりに努めている。また、要望などがあればその結果を便り等を通して知らせ、理解してもらうように努力している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会やミーティングなどで個々の意見を言ってもらい反映している。	東、西ユニット合同の職員会や、別々のカンファレンスなどで、職員の意見や提案を聞くようにしている。職員にとっては、話しやすく、意見を出しやすい雰囲気になっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングや個々の話し合いで要望や意見を聞き、反映できるものについては実施している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベルを把握し、それに応じた内外の研修を受講してもらっている。 リーダーによるその時その時の指導を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上伊那圏域グループホーム研修会に参加し、勉強を行っている。 他のグループホームとの交流により、質の向上に向け努力している。 新しいグループホームの職員研修を受け入れる事など、相互訪問の活動を通じて質の向上に向けて勉強していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に本人からの不安や希望等を良く聴き受け止める。 必要があれば家族、役場などの関係者と検討し対処する。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面接時に不安や希望等をしっかりと聞き受け止め、話を全て聴き入れる気持ちでお話をし、又そのための環境作りや役場などへの働きかけも行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接を行い、本人家族の意見を聴き必要としている支援を把握し、職員に報告し検討する。 受け入れの準備、環境整備等も念入りに行いサービスの提供につなげている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で共に過ごしながらい信頼関係を築き、人生の先輩として教えていただく事、注意していただいた事などを大事にし、共に生活していく努力をしている。 利用者を職員が互いに支え合い助け合ったり、喜びあったりしながら温もりある生活が出来るように努力している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は本人と家族の時間を大切にするように努めている。家族の写真等を見ながら本人と家族の話をするようにしている。 来所時、電話連絡時には家族の気持ちを大切にしながらより関係が深まるように努めている。 月1回写真を送っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の訪問の際には、利用者本人の部屋でお茶を飲んでいただき、ゆっくりと時間が過ごせる様に努めている。 来所しやすい場所となる様に玄関の雰囲気や職員の対応についても話し合っている。 帰りには「又お出掛け下さい」との言葉を必ず掛けるようにしている。	友人、知人や親戚の方が訪問しやすいような雰囲気づくりをしている。ある家族の訪問では、ダンスを皆の前で披露してくれた。また、実家や墓参り、親戚会など利用者が出かけることを積極的に支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりを尊重し、性格や生活歴を考え穏やかな日々が過ごせる様に居場所や言葉がけに気をつけている。 話の中に職員も入り、話をつなげたり、話を振ったりする対応を日々している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も「お寄り下さいね」の言葉がけをしている。 年賀状や手紙のやり取りをしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用時に生活歴や情報提供書を元に本人の希望、家族の希望を聴いてケアプランを作成している。 日々の会話や行動を把握する事に常に努力している。	入居時に利用者や家族から聞いた、好きなことをケアプランに反映させている。また、日々の会話や行動の中から利用者一人ひとりの希望や思いを把握し、介護記録に記録して職員が共通理解できるように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に本人家族から情報を得る。生活歴の中から、又情報提供書を見たり、ケアマネから今迄の経過等を詳しく聞いたりしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴の中からその人個人の有する能力を把握するように努めている。 1人ひとりに目を配り、1日ごとの状態を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意見を聴きながら現状を受け止め、又今迄のサービスも参考にしながらカンファレンスで話し合い、本人の希望やなるべく出来る事を入れた介護計画を作成している。	このグループホームで活用している「ケアプランの実施状況及び評価」は、職員が利用者一人ひとりのケアプランの具体的な目標を絶えず意識することができ、また、モニタリングにも役立てることができ、効果を上げている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に応じて見直しを行っている。 介護記録、連絡帳に記入し情報を共有している。 変化が生じた場合は家族本人と話し合い見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望又その時の状況に合わせて病院への付き添いや送迎をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、地域の方々の協力を得て支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態を家族に説明し、主治医と相談しながら家族の意向を聞いて適切な医療を受けられるようにしている。 主治医(内科)や協力医療関係(精神科・歯科・リハビリ)の診察は施設内で受けられる様に支援している。	主治医による診療の他に、精神科医による認知症の受診、マッサージ師によるリハビリなど、利用者の要望に応じた医療の支援をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が利用者の健康管理を医療機関と連携して行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連絡を取り合い又見舞いに行き本人が安心出来る時間を少しでも多く持つようにしている。 退院後の変化も考え病院や家族と相談している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時家族の考えや要望を聞いている。体調の変化のあった時再度話し合い、状態の変化に対応している。 予後の事を主治医・家族・施設で話し合い、職員はその方針に従って支援する。	この1年間に、東ユニットでは5人、西ユニットでは1人の方の看取りまで支援してきたように、家族が希望するときには、医師と連携し職員との共通理解を図ったターミナルケアを目指している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練を行っている。 職員間で話し合いや看護師より基本的指導を受けるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練を全ての利用者と職員で行っている。 地域の方々も防災訓練時にも来ていただいている。 運営推進会議の折、災害時の協力体制をお願いする。(利用者人数の報告をする必要有)	年2回(夜間を想定した訓練を含め)、お隣など地域の方の協力を得て、防災避難訓練を行っている。職員も全員参加して、非常時の連絡や避難の仕方をつけるようにしている。スプリンクラーを設置して、設備の充実も図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大事にし、その時々合った対応をしている。 言葉かけや言葉遣いについては職員会で話し合っている。 守秘義務については職員会等で徹底している。	利用者は人生の先輩である、という思いを職員皆で大切にして、言葉遣いを丁寧に、また、礼儀正しく対応できるように留意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を大切にし、なるべく実現出来る様にしている。 「はい、いいえ」だけの言葉にならない様に気を配っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のリズムで生活出来る様にしている。 (起床・タバコ・お酒) 希望や要望のある時は極力それにそうように努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の手持ちの衣料を季節に合わせて着て頂く。オシャレの要素を少しでも入れる。 (マフラー・スカーフ着用) 朝必ず髪の毛の手入れをする。 美容師さんにも来ていただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の相談をする、好みのものを聴く、季節の物を作る、盛り付けや味見をしていただく、食器を拭いていただく、テーブルを拭いていただく等を一緒に行っている。	当日は東ユニットでは稲荷ずし、西ユニットでは五平もち中心の、利用者の希望を取り入れ、よく考えられた献立であった。利用者もお手伝いをして、楽しく会食ができた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂取量を確認し、少ないと感じた時は声をかけたり体調の確認をする。又代替・好物で対応する。 3回の食事時のお茶や昼食後の飲み物、風呂の後の飲み物で摂取する。牛乳・ヤクルト・コーヒー・ココアも好みで摂取している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを行なっている。入れ歯の洗浄消毒、歯科医師の往診依頼、受診など支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めたトイレ誘導、随時トイレ誘導などを通して、気持ちよくトイレで排泄出来る様に支援している。 パットの使用状況も記録し、トイレ誘導する事でパットの使用量を減らす意識を持つようにしている。	トイレ誘導には特に留意して、利用者一人ひとりに合った時間を決めたトイレ誘導、随時トイレ誘導などを他の人に分らないように静かに行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩に出かけて体を動かすようにしている。 食事は野菜を多く使用し、3食汁物を付けている。 お茶・牛乳・ヤクルト・果物も多く摂取出来るように心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望にそった入浴が出来る様にしている。	利用者の希望にそって、日にちや時間などをだいたい決めている。東ユニットでは、毎日入りたい利用者があるので、入浴の準備をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝を強要せず、個々の時間に合わせている。 眠れない利用者には話をしたりテレビを見たり、お茶を飲んだりして一緒に過ごすようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書又は看護師の指導にて理解し、内服後の副作用に注意して観察している。 処方箋を確認し目を通すように一つにまとめてある。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で本人に出来る事をしていただいている。(新聞配達、新聞たたみ、洗濯物たたみ) 歌やドライブ・散歩・外食での気晴らし、又タバコの喫煙、お酒の喫飲等も支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望又は職員の声かけで散歩に出かけるように支援している。 家族との食事や親戚の集まりなどに出かけたり、家の様子を見に行ったりしております。 職員とのドライブや外食にも出かけております。 花見や紅葉狩り、初詣や地域の文化祭・どんど焼き等にも出かけております。	利用者の希望を聞いて、職員と一緒に近所を散歩したり、車で町中に買い物に出かけることがある。また、四季折々に外出したり、家族と一緒に出かけることも支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預っておりません。本人も持っていません。 必要時は家族と連絡を取り、その都度いただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたい、と言えば使用してもらっている。家族からの電話があれば本人と話が出来る様に支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングがあり、畳の居間もあります。床暖であり心地よい暖かさです。冬はコタツがあり、そこから外を見ることも出来ます。見晴らしも良く四季の移ろいを感じる事が出来ます。	広い玄関から入って、左の廊下を通って行くと、やや広めのリビング・ダイニングがある。真正面に南アルプスが控え、景色のよいこの場所で東西ユニット合同の催しが行われることが多い。訪問当日は、ハーモニカ・歌のボランティアの方を温かく迎えてくれた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで皆さんと過ごす事も出来ます。ソファで一人で居たい時は、一人で居られる様に用意してあります。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたベットやタンスなどを持ってきていただいております。本人の望むように部屋をセットしています。	利用者一人ひとりの思いがこもった家具や品物が、それぞれの居室に合うように配置され、気兼ねなく過ごすことができるように配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手摺りが設置しており、居室の近くにトイレ・洗面所があります。リビングから居室を見渡す事が出来、安全の見守りが出来る。時間がかかっても、その方のペースでやっていただいている。		

(別紙)

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を提示している。 ・業務の中で職員1人1人が念頭に入れ仕事に取り組んでいる。 ・職員会で毎月確認しあう。	理念の3つの“わ”について職員は、連携の輪、なごやかなの和、聞き上手・話し上手の話と具体的に語ってくれた。管理者と職員とがよく共通理解していることがうかがえる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域とのつながりを大切にし、地域行事等に積極的に参加して交流を深めている。	地域の組合に加入し、普通の組合員と同じように道普請に出かけたりしているので、近所からの野菜の差し入れなどが普段からある。また、利用者が地域の文化祭やどんど焼きなどに参加したり、地域からハーモニカ、踊りなどのボランティアがいろいろあったりして、地域とのつながりが強い。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・海外協力隊の研修受け入れ ・他施設からの研修受け入れ		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議で出された意見は職員に伝え、サービスの向上にむけ努力している。	地域から総代、隣組組長、民生委員、そして町役場・包括センター職員、また、利用者代表、家族代表と幅広くメンバーが参加し、話し合いを行っているが、定期的開催できていない。	地域の方々や利用者の家族の方々の理解を得て、時期や時間、場所や方法を工夫して、定期的開催することが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・役場などに出向き担当者で面談し、施設での状態を常に報告している。	利用者についての情報交換などで担当者との連携を密にとっている。	運営推進会議や行事などでの参加をさらに依頼し、より広く協力関係を築いてゆくことが望まれる。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束については、止むを得ない場合家族と話し合い、最小限度の拘束で安全が保たれるよう努力するとともに、月1回の話し合いをし再検討している。	利用者の家族との話し合いの中で、認知症が進み車椅子から立ち上がってしまうため、安全ベルトをすることとなった事例では、利用者の実情を話し合い、拘束解除に向けて様々な検討を続けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・事業所内で虐待について話し合いを持ち、虐待を見過ごすことのないようにしている。		

8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>・研修会に参加し、職員会を通じて全職員に報告している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約時に充分説明をし、意見を聞き理解、納得を得た上でサービスを提供している。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・利用者が気軽に話していただける場を設けたり、家族からも意見を言っていたりするようにしたりしている。</p>	<p>普段から、利用者やその家族と気兼ねなく話せるような人間関係づくりに努めている。また、要望などがあればその結果を便り等を通して知らせ、理解してもらうように努力している。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・職員会等で意見や提案を聞く機会を設けて、反映させている。</p>	<p>東、西ユニット合同の職員会や、別々のカンファレンスなどで、職員の意見や提案を聞くようにしている。職員にとっては、話しやすく、意見を出しやすい雰囲気になっている。</p>	
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>・ミーティングや個々の話し合いで要望や意見を聞き反映できるものについては、実施している。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・外部研修に参加できるよう計画実施している。また内部研修は職員会の折行っている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・同業者との相互訪問等の活動を通して、サービスを向上させている。</p>		

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>・利用者の面接時に本人から良く聞き受け留めている。 ・日常の会話の中から聞きとめる努力をしている。</p>	
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>・家族から相談があれば傾聴し、相談の努力をしている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・本人家族の意見聞きいれ、個人を尊重しその人らしく生活できる様サービスを提供している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>・一緒に生活しながら会話をし、人生の先輩である利用者から学ぶ努力をしている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>・利用者を支えていけるよう、情報交換、連絡を密にし家族との関係を大切にしている。</p>	
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>・親戚、友人、知人など馴染みの方が面会時等気軽に寄っていただき、お茶を飲み話しをしていかれるような雰囲気作りに努めている。</p>	<p>友人、知人や親戚の方が訪問しやすいような雰囲気づくりをしている。ある家族の訪問では、ダンスを皆の前で披露してくれた。また、実家や墓参り、親戚会など利用者が出かけることを積極的に支援している。</p>
21		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>・1人1人が関わりをもてる様に、お互いに尊重し支えあえるように努めている。</p>	

22		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>・退所後も相談にきていただけるようにお話をしている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・利用時に生活歴と情報提供書を元に本人・家族の希望を聞きケア計画を作成している。</p>	<p>入居時に利用者や家族から聞いた、好きなことをケアプランに反映させている。また、日々の会話や行動の中から利用者一人ひとりの希望や思いを把握し、介護記録に記録して職員が共通理解できるように努めている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・本人家族から情報を得て職員1人1人が情報を大切にしている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>・生活歴の中からその個人の有する力を把握するよう努めている。</p>		
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>・本人家族から希望を聞き、職員全体で話し合い計画作成をしている。</p>	<p>このグループホームで活用している「ケアプランの実施状況及び評価」は、職員が利用者一人ひとりのケアプランの具体的な目標を絶えず意識することができ、また、モニタリングにも役立てることができ、効果を上げている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・介護記録や連絡帳にて情報を共有し、職員会やミーティングの折に話し合っている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>・病院への送迎</p>		

29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>・ボランティア、地域の方々の協力をいただきながら支援している。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・施設の主治医と相談しながら家族の意向を聞き適切な医療を受けられるようにしている。</p>	<p>主治医による診療の他に、精神科医による認知症の受診、マッサージ師によるリハビリなど、利用者の要望に応じた医療の支援をしている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>・看護職員が健康管理を医療機関と連携して行っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・病院と連絡を取り合い退院後もサービスが変化する事も考慮し、家族と話し合い相談に努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>・終末期の在り方を家族と話し合いながら職員全員で支援に取り組んでいる。</p>	<p>この1年間に、東ユニットでは5人、西ユニットでは1人の方の看取りまで支援してきたように、家族が希望するときには、医師と連携し職員との共通理解を図ったターミナルケアを目指している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>・全職員が応急手当や初期対応の訓練を行っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>・運営推進会議にて自治会の方に協力体制を依頼している。防災避難訓練や消火訓練を行っている。</p>	<p>年2回(夜間を想定した訓練を含め)、お隣など地域の方の協力を得て、防災避難訓練を行っている。職員も全員参加して、非常時の連絡や避難の仕方を身につけるようにしている。スプリンクラーを設置して、設備の充実も図っている。</p>	

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・言葉かけには、日常生活の中で気をつけて行っている。 ・個人情報の守秘義務。	利用者は人生の先輩である、という思いを職員皆で大切にして、言葉遣いを丁寧に、また、礼儀正しく対応できるように留意している。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人の希望を大切にし、サービスを提供している。	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・朝は起きたい時に起床し、食事も本人の希望に合わせて提供している。 ・1日の日課は決めていない。本人のペースで生活していただく。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・理美容については本人や家族の希望で行っている。	
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・職員と一緒に準備や片付けをしている。献立については食べたい物を聞き対応できるようにしている。	当日は東ユニットでは稲荷ずし、西ユニットでは五平もち中心の、利用者の希望を取り入れ、よく考えられた献立であった。利用者もお手伝いをして、楽しく会食ができた。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・お茶や水分は飲みたい時に飲んでいただけるようにしている。 ・代替食も考えながら1人1人の健康状態にあわせている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・入れ歯の方は毎日洗剤につけている。 ・口腔内の清潔保持に努めている。	

グループホーム 道・西

43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレでの排泄支援を行っている。排泄の失敗を減らしていけるようその人にあったパターンを考え支援している。	トイレ誘導には特に留意して、利用者一人ひとりに合った時間を決めたトイレ誘導、随時トイレ誘導などを他の人に分らないように静かに行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分補給や食べ物の工夫をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・曜日を決めずに入浴していただいている。 ・本人の希望にそった入浴ができるようにしている。	利用者の希望にそって、日にちや時間などをだいたい決めている。西ユニットでは入浴を拒否する利用者があるので、それなりの支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・就寝は1人1人にあわせて休んでいただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋の説明や看護師の指導にて理解し、内服後の変化に注意観察している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・タバコ、お酒の希望があれば提供している。又行事等ではお酒を提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・外出、外食等出掛けるよう支援している。 ・地域の行事には参加できるよう努めている。	利用者の希望を聞いて、職員と一緒に近所を散歩したり、車で町中に買い物に出かけることがある。また、四季折々に外出したり、家族と一緒に出かけられることも支援している。	

グループホーム 道・西

50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭は家族より預っていない。必要時には家族と連絡をとっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望があれば電話をしていただき、電話があれば本人と話をさせていただく。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・広々としたリビング・ダイニングがあり、木造建築で木の温もりを感じて生活できる。和室がありいつでも横になりくつろげる様になっている。 ・花や写真を飾り、居心地のよい生活の場を提供できるよう工夫をしている。	広い玄関から入って、右の廊下を通過ってまた右に曲がると、西ユニットのリビング・ダイニングがある。窓から南アルプスが見え、景色のよいこの場所はコタツに暖まったり、会話をしたりしてゆったりと過ごせる空間である。壁面には利用者の大きな写真が飾られ、楽しい毎日が感じられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・和室で横になったり、利用者同士で話をしたり、テレビを見たりしている。ソファで気楽に休めるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に家での使い慣れた物等を持ってきていただいている。	利用者一人ひとりの思いがこもった家具や品物が、それぞれの居室に合うように配置され、気兼ねなく過ごすことができるように配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下、トイレ等に手摺りを設置し、又車椅子使用できるように広がっている。 ・注意が必要な時は見守りを行い、その方のペースに合わせて行っていただいている。		